令和２年度第２回朝日町総合教育会議　議事録

日　時　：令和２年１０月２３日（金）午後３時３０分～午後４時５２分

会　場　：役場３階全員協議会室

出席者　：朝日町長　　笹原靖直

教育委員　　南茂敬子（教育長職務代理者）、小澤政憲、河村智明、
コケシュ知子

教 育 長　　木村博明

ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ　　さみさと小学校長　金山住恵、あさひ野小学校長　水島祐司、
朝日中学校長　松島　悟

事 務 局　（町長部局）
総務政策課長　谷口保則、課長代理　佐渡　譲、
住民・子供課長　米田　淳、課長代理・子供係長　野崎幸恵
（教育委員会事務局）
事務局長　小杉嘉博、主幹・スポーツ係長　大森　敦、
局長代理・学校教育係長　吉田　朗、生涯学習係長　高瀬博樹、
教育センター指導主事　上田　勝

傍聴者　：なし

会議次第：１　開　会

２　町長あいさつ

３　協議事項

（１）朝日町教育大綱の改定について

（２）朝日町型保小中一環（連携）教育の推進について

（３）その他

４　閉　会

小杉局長：　ご案内の時間になりましたので、只今から令和２年度第２回朝日町総合教育会議を開催いたします。はじめに、町長がご挨拶申し上げます。

笹原町長：　みなさん、こんにちは。今月に入って、特に今日あたりから非常に肌寒い日となりました。教育委員の皆様方には大変お忙しい中、第２回の総合教育会議に出席いただきありがとうございました。また、本日はアドバイザーとして小中学校の校長先生方にも出席いただき感謝申し上げます。

昨日の新聞にも取り上げられご存じのとおり、教育委員会、小中学校の先生方、様々な関係の皆さまのおかげと思っております。コロナ禍の中で学びを止めるわけにはいかないという教育長の強い思いもありますが、教育委員や関係者の方のご尽力のおかげと思っています。ＰＴＡの方とも数年前から定期的に意見交換をしながら、タブレットの導入、デジタル教科書の導入に町として先駆けて取り組んでいたことも、オンラインの教育に向けてスタートをきれた要因だと思っています。４、５月とどのような形でやるかとなったとき、教育長はせっかくならこの機会に学びの場を止めるわけにいかない、子供達に学びの場の提供、ならばオンラインでの教育をやっていこうとスタートしました。綿密にシミュレーションに入り１１月の半ばに第２波第３波が来るだろうということを視野に入れながら取り組んできました。改めて関係各位の皆様方に感謝を申し上げます。

今日は２つ、朝日町教育大綱の改正と朝日町型保小中一貫（連携）教育がキーワードとなっています。これをさらに推し進めるために、教育委員の皆様方の忌憚のないご意見を伺いながら、前に進めていきたいと思っていますので、引き続き皆様方のご理解ご尽力を賜りますようお願い申し上げます。今日はどうぞよろしくお願いします。

小杉局長：　それでは、この後の進行については総合教育会議設置要綱第４条第３項の規定により、町長にお願いしたいと存じます。よろしくお願いします。

笹原町長：　それでは、（１）の「朝日町教育大綱の改定」について、事務局から説明お願いいたします。

吉田局長代理：（資料に基づき説明）

笹原町長：　ただいまの事務局からの説明に対して、教育委員からご質問、ご意見などあればお願いします。南茂委員どうでしょうか。

南茂委員：　大事なところをよくまとめて、しっかりと朝日町として強調していきたいところをよく活かしてまとまっているのでないかと思います。

笹原町長：　河村委員どうでしょうか。

河村委員：　南茂委員がおっしゃったように、要点がきちっとなっており、すごく分かりやすくなりました。

笹原町長：　他にいかがでしょうか。ないようですので、今回の協議・調整をもって、令和３年度から今後５年間の朝日町教育大綱を決定したいと思いますが、ご異議ございませんか。

異議なしということです。ありがとうございました。それでは、（２）の「朝日町型保小中一貫（連携）教育の推進」について、朝日町型小中連携教育ガイドライン（案）が資料として提出されておりますので、事務局から説明願います。

上田指導主事：（資料に基づき説明）

笹原町長：　ただいまの事務局から令和３年度から始まる「朝日町型小中連携教育ガイドライン」（案）についての説明がありました。まず、オブザーバーの校長先生からご意見をお願いいたします。最初にさみさと小学校、金山校長お願いします。

金山校長：　今、小中連携についてのガイドラインを説明して頂き、９年間の連続した教育の有効性ということが良く分かりました。子供達の成長にとってもすごく大切なことだと思いました。小学校から中学校にあがるときに、環境が変わったり、取り組み方が違ったりして、中１ギャップといわれる状況に陥ったりすることがあります。この接続を滑らかにしていくことで中１ギャップの解消につながっていくのではないかと考えます。

先程説明のあった乗り入れ指導ですが、今年は、中学校の数学担当の教員に週１日来ていただき、４・５・６年生の算数の時間に出ていただいています。中学校の先生に教えていただくということで、子供達は、すごく意欲的になります。先生方も算数の専門的なことを教えてもらえる機会にもなるため、教員の資質向上、子供達の学力向上につながるとても良い取り組みと感じていますので、今後も続けていただけたらありがたいです。

笹原町長：　ありがとうございました。あさひ野小学校、水島校長お願いします。

水島校長：　小中連携について、事務局からの説明で、導入の背景について３つありましたが、その中に児童生徒数の減少とありました。本校では特に児童数の減少が深刻でして、その実情から少しお話をさせていただきます。

児童数が減ることで目が行き届くといったメリットももちろんあります

が、子供同士の関わりということを考えたとき、やはり関わる機会がさみさと小学校と比べても少ないということが実情です。その辺りをカバーするためには小中の連携もそうですが、その中に小小連携という部分もあってそこにも期待をかけています。人数が少ないということに加えて、本校は隣接するいちご保育園からそのまま子供たちが上がり、小学校でも同じメンバーでクラス替えなしに過ごします。人間関係がどうしても固定化するという問題もあります。その辺りの解消にも学校間の垣根を越えてという辺りには大きな教育効果が期待できると考えています。

笹原町長：　ありがとうございました。朝日中学校、松島校長お願いします。

松島校長：　今ほど、学習面それから不登校などの人間関係の面をお話しいただきましたが、中学校に入学する生徒にとって、部活動もまた一つの大きな心配事となります。中学校での部活動体験を、現在は２月の中学校説明会のときにやっていますが、６年生の夏休み頃にするなど先にやっていくということも考えられますし、教育大綱の中にもありますが、部活動と地域のコミュニティスポーツとも関わってきます。子供達がスムーズに部活動に移行することを考えながら連携していくことは大変良いことだと思います。

笹原町長：　ありがとうございました。次に、教育委員の皆さまからご質問、ご意見をお願いします。最初に南茂委員お願いします。

南茂委員：　私は、朝日町型ということで１つの学校にしてしまうのでなく、現在の学校を存続させながら、連携を図っていくことがとても良いことだと思っています。なぜかというと、ふるさと教育にもありましたが、生まれ育った自分達の地域を愛するという点を残せるからです。学校が１つになり、大きくなると地元との連携が薄れていくが、それぞれの地域にあると、地域との連携がうまくいくのでないかと思います。そして、きめ細かな指導、目が行き届くなど少人数の良さもあり、そういう点を生かしながら、垣根を越えて３校が連携していく。少人数になると人間関係が固定化していろんな問題が出てきますが、垣根を越えていくと豊かな人間関係を築くことができると期待されます。コミュニケーション能力も育つのでないかと思いますし、乗り入れ授業もとても良いと思います。小学校は全教科を１人の教員で教えますが、教員にも得意不得意教科があるので、乗り入れをしてもらい、子供達が苦手意識を持ちがちな算数できめ細かな指導をしてもらうと、子供達の学習意欲も向上します。小学校は子供の興味関心をとら

えてうまく導入を図っているので、そういう点を中学校の先生は学べる。互見授業をするということは、教員の指導力向上にもつながっていくと思います。学校が１つになると良さが消えていく部分があると思っていますが、３つ存続させることによって学校ごとの特色を生かしながら、これから課題になる少人数という面も克服できると思うので、協力して進めていって欲しいです。

笹原町長：　ありがとうございました。小澤委員お願いします。

小澤委員：　ここに書いてあります、朝日スタンダードという方式は素晴らしく、これから進めていくべき方針だと思います。私はあさひ野小学校の地元ですが、小学校１学年十数名という少人数なので、どうしても人間関係が固まる形を懸念はしていました。小小の連携、あるいは、小中の相互乗り入れの学年間の交流も進めていっていただければと思います。

　相互乗り入れ授業は、今は算数だけと聞いていますが、将来は他の教科も検討はしているのでしょうか。

木村教育長：県の状況を見ると、「他の教科も」となると大変厳しい状況ですが、今後そういうことも検討してもらいたいと考えています。

笹原町長：　松島先生、乗り入れで行政としても協力しなくちゃいけない中で、中学校の先生が小学校に行くということで負荷がかかってきているのかなと思っていますが、うまくやっておられるのかなということと、問題点や行政として何か支援が出来ることがあるのでしょうか。

松島校長：　教員定数が決まっている中、今年度は少し多く配置してもらっていることで小学校に乗り入れ授業ができます。中学校では、ティームティーチングをしたり、校内で補充したりしているので、今年度は、数学科１人を派遣するのが精一杯です。

笹原町長：　もう１点、子供達には非常にいい方向だということですが、先生達の互いの刺激という部分でプラスに働いていると捉えてもよいでしょうか。

松島校長：　中学校の教員としては、小学校ではどういう授業をしているのか、どういうことを学習してきているのかなど、本当に勉強になることが多いと思います。こんな学習を積み重ねて中学校に入学しているのだということを理解することで、改めて先生方の勉強、交流、連携にもなっていくと思います。

水島校長：　算数・数学については特に積み重ねが大事な授業でして、小学校の教員

も今までも多少は意識していましたが、実際に中学校の数学の先生に授業入っていただくことで、今勉強している学習が中学校のどんな学習につながっていくのかということにその場で触れていただけるので、子供たちはもちろん、教員にとっても大きな刺激になっていると思っています。

金山校長：　授業を始める前の打合せで、乗り入れ指導をされている教員の方から、６年生の担任に、授業の中での表の提示の仕方について、小中の系統性を踏まえ、アドバイスをされている場面を目にしました。「小中のつながりを考えての提示」という視点では、今まで考えたことがなく、その視点でも考える大切さが分かりました。このような１つ１つが、教員の資質向上につながっています。

笹原町長：　ありがとうございました。では、河村委員お願いいたします。

河村委員：　今いろいろな話を聞かせていただいたが、特に、教える立場、学ぶ立場、それぞれが有益でないといけない。そういう部分からすると、先生方の立場からすると中学校だけでなく小学校の現場を見させていただくということが、次回、生徒が自分のもとにやってくるとき、そこからすでに生徒を眺めることが出来る。現場を見ることにおいて、無駄を省いて中学校で教えていくということも出来ます。逆に生徒の立場から見ると、小学校にいながら中学校のことを学べる。経験からすると、小学校を終えて中学校に行ってから初めての中学校の雰囲気に戸惑っていました。そういう部分を、スライドアップすることが出来るメリットがある。中学校の内容を自然に、場所を変えないで分かるということは大事だと思いました。

笹原町長：　中１ギャップの解消につながっていく流れということになりますね。では、コケシュ委員お願いします。

コケシュ委員：中１ギャップに関して言うと、子供達が中学校に行くときに、子供達自身が一番不安だと思うが、同時に親も不安で環境になじめるか勉強についていけるかと、子供も親も不安でした。小中連携して乗り入れしたりしてという過程があると、子供自身も中学校の先生達、勉強の仕方を知った上でちょっと安心して中学校にいける。そのベースがあることで、勉強に集中して取り組んでいけるのかなと思います。ただ不安を取り除くだけでなく、子供達が中学校の勉強に意欲的に取り組めるというのは、両方からメリットがあるのかなと思いました。

笹原町長：　ありがとうございました。そのほかご意見がありましたらお願いします。

木村教育長：乗り入れ指導は、国が今後進めたい流れの１つですが、現実としてなかなか進んでいない。朝日町ではそれを先取りした形でやっており、今年は試行的な年です。今年１年やってみて成果と課題をしっかりと踏まえて来年につなげていきたいというところです。

資料の２枚目を見てください。文科省の発表が昨日ありました。いじめ不登校はなかなか無くならない。中１ギャップの資料で、小学校と中学校の環境に大きな違いがあります。小学校は学級担任制、中学校は教科担任制という大きな隔たり。小学校と異なり、中学校は板書で一斉指導が中心になって教師主導型になる。中学校は部活動が入る。子供達にとって小６を終えた時点で一度に環境が変わります。その中で、いじめの認知件数が２万件から３万１千件に、登校の児童生徒数も９千人から２万４千人に跳ね上がります。暴力行為は３倍くらいに跳ね上がります。子供達が中１ギャップの中で悩んで苦しんで、学校になじめない中でいろんなこうした現象が起きると考えていて、ここをどうやって滑らかにしていくかが課題です。小中連携は中１ギャップの解消・緩和が目的です。

笹原町長：　教育長から補足がありましたが、他にありますか。

無いようですので、ただいまの協議をもちまして「朝日町型小中連携教育ガイドライン」を決定したいと思いますが、ご異議ございませんか。

異議なしということで、資料の表紙の（案）をおとりください。それでは、令和３年度からのスタートに向けて、教育委員会と各学校が連携して準備を進めていいただきたいと思います。

続きまして、今後のスケジュールについて事務局より説明願います。

木村教育長：（資料に基づき説明）

上田指導主事：（資料に基づき説明）

木村教育長：（資料に基づき追加説明）

笹原町長：ありがとうございました。

ふるさと教育は、再生会議の委員の皆様からも盛んに言われましたが、積み重ねによって現実的なものになったのかなと思いワクワクするようなイメージが湧いてきました。令和４年度からの保育所を加えた連携などについて説明がありましたが、これについて、校長先生からお話を聞きたいと思います。さみさと小学校金山校長お願いします。

金山校長：　今、保小中一貫教育の話を聞いて、子供達が自立していくための基礎を

築きあげていくための１２年間だと思うので、切れ目のない一貫性のある学びとなり、子供達が心豊かに成長していくのではないかと思います。

ふるさと科ですが、私は朝日町に来て、子供達がこれほど住んでいるところを大好きとか素敵をいっぱい見つけられる、こういう子供達はいないと思います。子供達は、今までいろんな所にスクールバスを使って学べたり、あるいは地区の行事やイベントに参加したりして、朝日町の良さや素敵をたくさん知っています。これを一貫教育とすることで、よりふるさとを大切にする気持ち、愛着、誇りというものを育むふるさと教育の推進を図っていくことが出来ると思います。

２つ目に、保育所から小学校になるとき、遊びを土台とした学びから教科の学習に移るので、そこでの小１プロブレムという状況はやはりあります。小学校ではスタートするときに少しカリキュラムを変えながらスタートさせていく。今までもたくさんの交流を図っていますが、接続、連携、一貫という視点で、接続していくカリキュラムの所を、今一度小学校側ではスタートカリキュラムをどうすればよいか、保育所側の年長児に１年生の学校の生活や学びにつながることを意識したアプローチカリキュラムを子供達が小学校はこういう所だよと伝えながらいってもいい。そういうことを教員同士が交流しながらカリキュラムを考えること、工夫することが出来るかなと思っています。今までは保育所・小学校・中学校といった学校としての縦の流れに地域の方々がご支援くださったり、おうちの人のご協力を得たりということがありました。一貫教育になるとその保育所・小学校・中学校という流れに、学校・保育所・家庭地域・行政という繋がりが組み込まれていき、それがしっかりと組み合わさることで、朝日町の未来、子供達の未来が素敵に作り上げられていくのかなと捉えています。

笹原町長：　あさひ野小学校水島校長お願いします。

水島校長：　先程から話題に出ている小１プロブレムは確かにあります。本校は、隣接した保育園からそのまま上がってくるのですが、それでも幼い子供たちにとっては、保育園と小学校の段差というものは大きいようで、なかなかなじめない子供が見られます。この問題は、文部科学省も富山県教育委員会も対策カリキュラム等を提示しており、それを取り入れてはいますが、それでもやはり段差は見られます。今回、朝日町独自の対策を保育所の先生、小学校教員、中学校教員が知恵を出し合って、作り上げていけるので

はないかとすごく期待をしているところです。

ふるさと教育についても、町内には素材がたくさんあります。子供たちが朝日町を大好きになるための教材があちこちにありますので、今でも扱ってはいますが、保小中一貫の中できちんと整理し新たな教材が開発できればと考えています。

笹原町長：　朝日中学校松島校長、お願いします。

松島校長：　中学校としてもふるさと教育は、総合的な学習の時間で行っています。例えば１年生は「我が町・朝日再発見」というテーマを掲げ、町内のいろんな施設で小学校の時に学んできた内容に上乗せし、再発見という形でまとめています。２年生は従来通り「社会に学ぶ１４歳の挑戦」で地域の事業所等での体験活動を行っています。３年生は今年度、町職員の方から出前講座として町の福祉・商工業等について話を聞きました。中学校３年生の目線で朝日町の良さ、他市町村との比較をしながら学習を進めています。これらをずっと続けていくことにより、ふるさと教育が深まっていけばよいと思っています。

笹原町長：　次に、教育委員の皆様からご意見を伺います。南茂委員お願いします。

南茂委員：　ふるさと朝日に誇りや愛着を持った子供を育てるということは大変良いことで、また、小１プロブレム解消のために保小中一貫教育というのは効果があるのではないかと思います。乗り入れ授業をするには教員の人数の問題があると言っておられましたが、ふるさと科を新設するとなると、朝日町は勉強する教材がたくさんあるので、授業時数等の問題が出てくるのでないかと思います。そこをクリアして子供達や教員の負担にならないカリキュラムの在り方を考えていただければと思いました。

笹原町長：　マンパワーの増員がひとつの掲げられたテーマですね。小澤委員お願いします。

小澤委員：　保小中一貫の取組みについては、ぜひ進めていただければと思っています。郷土を愛する心を育み、子供達に希望・夢を与える取組みをぜひ小中９年間プラス保育園３年間の中に実現していただければと願っています。

笹原町長：　河村委員お願いします。

河村委員：　中高一貫の時にふるさと教育が多かったと思います。たくさんありすぎて、逆に、系統だてすることが出来なかった。そういう部分に問題点があったように思います。町の文化財そういったものを子供の将来を絞るため

のものでなく、将来の視野を広げるための教育としてのふるさと教育に期待しています。希望の町というのがどういう意味であるか、そういう文化財によって子供達に示していくという事は一つの大切なのかなと思います。

笹原町長：　コケシュ委員お願いします。

コケシュ委員：私は朝日町に他から移ってきましたが、朝日町の方の絆の強さというか、お互いの事を知っていて大きな家族みたいな温かい雰囲気だと思いました。その中で、子供達が育っていく環境もすごくありがたい。ふるさと科で子供達が皆さんのことを知って、皆さんも子供達を育ててくれるような環境に期待しています。

　海外に行ったときに、海外の人の方が日本のことを良く知っていて、私自身日本のことを良く知っていないなということがあって、それから自分の育った国のことを良く知ろうという意識を外に出て思いました。子供達が、小中学校の時にふるさと科で自分の生きている場所を知るということがアイデンティティの形成に大事なことであり、土台をしっかり学んで知っていくということはとても大事なことだと思うので期待しています。

笹原町長：　私も移住定住で東京に行って、朝日町はいい所だと言っているうちに本当に分かってきたというか、普段の朝日町の良さを気付いていないということが当時の私も思いました。小学校中学校での町の支援もですが、学校の先生達が朝日町に赴任してこられて、他の町との取り組みの違いが分かるといいます。当たり前のことに気づいていないということが、全くその通りだなと思っています。町の良さを発見、情報発信するということも大事なのかなと思います。次に、住民・子ども課米田課長お願いします。

米田課長：　遊びを中心とした幼児期の教育から教科書等の学習を中心とした小学校教育への円滑な接続、小１プロブレムを解消し保育所と小学校との連携が重要だと思っています。保育所では、園児には常に小学校以降の生活を意識して保育を行っており、また、保育士はここまで育てた子供をもっと伸ばして欲しいとの思いが強く、小学校との連携や接続にも関心があります。

　１１月２日の所長会に上田指導主事から説明していただくということですので、令和４年度にうまくつなげていくようにしたいと思います。

笹原町長：　冒頭でも話しましたが、オンライン授業等、関係各位の皆さんの積み重ねと連携に感謝申し上げます。保小中の連携に向けても関係の皆さんのご尽力ご理解、応援をしていただければありがたい。せっかくの機会ですの

で他に何かございましたらどうぞ。よろしいでしょうか。

保育所との連携については、令和４年度のスタートに向けて住民・子ども課と十分な協議を進めていただきたいと思います。それでは、（３）その他に入りたいと思います。事務局からお願いします。

吉田局長代理：（資料の説明）

笹原町長：　せっかくですので、他にご意見ありましたらお願いします。特にないようです。保小中の一貫教育、ふるさと科の創設、ワクワクするなという気持ちであります。私も色々な所で言っているのですが、どうせ仕事をするなら楽しくワクワク感を持って取り組みたいと思っています。

教育委員をはじめ、関係各位にとっては将来を担う子供達の為に進めようとすることに関して、改めてご尽力を賜りますことをお願いして本日のすべての日程を終了とします。事務局にお返しします。お願いします。

小杉局長：　町長、教育委員の皆様、そして小中学校の校長先生方どうもありがとうございました。それでは、閉会にあたり木村教育長よりご挨拶をいただきたいと思います。

木村教育長：今日は本当に熱心な議論をありがとうございました。いろんな観点から今日は議論いただきまして今後の取り組みの参考になると思います。おかげさまで、令和４年度から保小中の一貫教育として取り組んでいくことを決定させていただきました。来年度の総合教育会議に向けて１年間かけてガイドラインの策定を進めてまいりたいと思います。

朝日町は、オンライン授業、デジタル教科書等いろんなことを先進的に取り組ませていただいています。教育のデジタル化も大きな流れになっていて、デジタル教科書は中核をなすものですので進めてまいりたい。小中一貫教育も進めてまいりたい。ふるさと科の創設も制度設計をこれからしてまいりたい。いろんな意味で朝日町の教育が取り組ませていただいているのも、笹原町長が教育に対して熱心で先行投資を惜しみません。明日台風が来ても朝日町はオンライン授業が出来ます。15 市町村で朝日町だけです。９月中に、全部揃いました。「学びを止めない」を合言葉に校長先生方と連携して進めてまいりました。いろんな形で先進的な教育に取り組ませていただいています。マスコミの皆様にも、朝日町の教育を情報発信して頂いているおかげで、「朝日町の教育いいね」と言われるのは、私たちも嬉しいし、保護者子供も何か自慢できる。朝日町で勉強できて良かっ

たねと思っていただけたらいいかなと考えております。一層充実させていきたいと思いますので、皆様方のご支援ご協力よろしくお願いしまして最後の挨拶といたします。ありがとうございました。

小杉局長：　以上をもちまして令和２年度第２回朝日町総合教育会議を閉会といたします。皆様、本日はどうもありがとうございました。